

1. 2024年度海外留学(実績)

| 対象学科 | 派遣先大学等 | 派遣期間 | 派遣人数 | 単位認定 | 研修目的等 |
|-------|-------------------|------------------------|------|------|---|
| 中国語学科 | 浙江大学(中国) | 2024年2月～翌年1月 (12ヶ月) | 4 | 有 | グローバル社会で活躍しうる有為な人材の育成を目標とし、国際未来社会で求められる中国語の実践的な能力を向上させるとともに、中国の社会や文化への理解を深める。 |
| | 東呉大学(台湾) | 2024年9月～翌年2月 (6ヶ月) | 1 | 有 | グローバル社会で活躍しうる有為な人材の育成を目標とし、国際未来社会で求められる中国語の実践的な能力を向上させるとともに、台湾の社会や文化への理解を深める。 |
| HT学科 | セントラルフロリダ大学(アメリカ) | 2024年8月～翌年5月 (10ヶ月) | 1 | 有 | 異文化社会に身を置くことで国際感覚を養うとともに、世界に通じるホスピタリティ・マインドを身につける。 |

2. 2024年度海外研修(実績)

(注)○は奨学派遣

| 対象学科等 | 派遣先大学等 | 派遣期間 | 派遣人数 | *単位認定 | 研修目的等 |
|----------|-----------------------|----------------------------|------|-------|--|
| 日本語学科 | ○ウーロンゴン大学(オーストラリア) | 2025年2月15日～3月1日 (15日間) | 2 | — | オーストラリアで行われている日本語教育の現状を理解するとともに、授業実践を通して日本語に関する専門知識、日本語教育に関する知識と能力を身につける。 |
| 英米語学科 | ○ハワイ大学(アメリカ) | 2024年8月25日～9月15日 (22日間) | 9 | 有 | 国際未来社会で活躍できる英語コミュニケーション能力を向上させるとともに、派遣先国の社会、文化をより深く理解し、多様化する社会で自ら積極的に行動できる異文化対応能力を身につける。 |
| | シーキューユニバーシティ(オーストラリア) | 2025年2月15日～3月1日 (15日間) | 15 | 有 | |
| | ○ウーロンゴン大学(オーストラリア) | 2025年2月15日～3月1日 (15日間) | 2 | — | 国際未来社会で活躍できる英語コミュニケーション能力を向上させるとともに、TESOLの専門家から英語指導に関する理論と実践を学ぶ。 |
| 中国語学科 | 北京語言大学(中国) | 2024年8月3日～8月31日 (29日間) | 12 | 有 | 中国語の「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能を伸ばすとともに、実際に中国に滞在しながらコミュニケーションや文化を体験し、国際未来社会で求められる実践的な能力を高める。 |
| | ○東呉大学(台湾) | 2025年2月10日～2月16日 (7日間) | 7 | — | 台湾の標準語としての「国語」と明海大学で学んだ「普通話」との発音や語彙における差異を調査。同時に東呉大学での学生交流などを通じ、現地の社会・文化・習慣への理解を深める。 |
| 外国語(GSM) | アジア研修(シンガポール) | 2024年9月5日～9月11日 (7日間) | 7 | 有 | 現地企業の視察を通して、異文化を理解し、日本企業または外資系企業がどのようにアジアでビジネスを展開しているか、またその課題について学ぶ。 |
| 外国語(教職) | ウーロンゴン大学(オーストラリア) | 2025年2月15日～3月1日 (15日間) | 3 | — | 国際未来社会で活躍できる英語コミュニケーション能力を向上させるとともに、教育の分野で活躍できる能力を身につける。 |
| 経済学科 | ○ハワイ大学(アメリカ) | 2025年2月9日～3月2日 (22日間) | 12 | 有 | 国際未来社会で活躍できる英語コミュニケーション能力を向上させるとともに、派遣先国の社会、文化をより深く理解し、多様化する社会で自ら積極的に行動できる異文化対応能力を身につける。 |
| | アジア研修(シンガポール) | 2024年9月5日～9月11日 (7日間) | 8 | — | 現地企業の視察を通して、異文化を理解し、日本企業または外資系企業がどのようにアジアでビジネスを展開しているか、またその課題について学ぶ。 |
| | アジア研修(台湾) | 2025年2月23日～3月1日 (7日間) | 5 | — | |
| 不動産学科 | ○ハワイ大学(アメリカ) | 2024年9月3日～9月10日 (8日間) | 7 | — | ハワイの不動産開発現場を視察するとともに、協定大学で現地不動産関連の講義を受け、グローバルな感覚や不動産学の知見を深化させる。 |
| | ハワイ大学(アメリカ) | | 1 | — | |
| HT学科 | ○ハワイ大学(アメリカ) | 2024年8月26日～9月6日 (12日間) | 8 | — | 世界有数の観光地であるハワイの観光産業施設等を見学し、ハワイの魅力や歴史・文化がどのように観光に影響しているか理解を深めるとともに、観光関連の講義を受け、英語の運用能力を実践する。 |
| 口腔保健学科 | ○ハワイ大学(アメリカ) | 2024年9月2日～9月9日 (8日間) | 5 | — | 歯科衛生士養成教育に関連した講義を受講するとともに、キャンパス内施設や開業歯科クリニックの見学を行い、米国の歯科衛生士の役割や業務を理解し、口腔保健に基づく歯科衛生活動について論理的に考える視野を備える。 |

*単位認定に当たっては、研修出発前後の事前・事後授業等、現地での研修及び授業外学習の時間数を満たし、その成果が認められた場合に単位を認定します。

長期留学成果報告書

留学先国及び留学先大学： 浙江大学（中国）

留学期間： 2024年2月 ～ 2025年1月

1 留学先で学習した内容について、詳しく書くこと（400字以上）

前学期は4班で文法・閲読・会話・作文の4つの授業を受けました。すべて教科書があるので教科書の内容に沿って進めていました。文法(精読)は週4コマ、1課ずつ長文・単語・词语搭配・语法・練習問題が1セットになっています。先生が単語ずつ説明をし長文の解説、練習問題の順で進めていました。閲読(阅读)は週2コマ、1課に4つ文章があり1コマで基本1文章を解くような進め方でした。会話(口语)も週2コマ、教科書のテーマに沿って音読やペアワークがあり1課が終わるごとにテーマに沿って先生がお題を5.6個出しそこから次の授業で自分の意見をみんなの前で発表するワークもありました。作文(写作)は週1コマ、これも教科書に載っている図を見て指定の単語がどの図に合うかを言い合い、毎週教科書のテーマに沿ってお題が出され最低350字の作文がありました。また、選択科目で汉语影视欣赏は週1コマ、毎週ひとつの映画を鑑賞して次の授業の最初に感想を言う授業でした。テストはなく好きな映画について600字程度のレポート提出がありました。

後期は5班で前学期同様に文法・閲読・会話・作文でコマ数も同じです。ただ、先生が変わるので進め方が少し変わりました。特に会話は前期は発表以外宿題は基本なかったのですが、"易读"というアプリを使って1課ずつ宿題があり、自由に発言するスタイルでした。作文も前期は350字～の宿題でしたが、400字～になりました。テストは中間・期末あり、60点以下が赤点です。内容は授業内で学習したものでした。テスト近くになると先生がテスト内容の説明をしてくれます。

2 留学先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

2人部屋を希望していましたが実際は1人部屋で、水道代は家賃に含まれていますが電気代はチャージ式で入っていたお金が無くなれば電気はすぐに使えなくなります。海外での生活は思っていたよりも慣れるまでに大変でホームシックになりましたが、1ヶ月もすれば段々慣れていきました。想像していた中国での生活は怖いイメージでしたが、寮の叔叔や掃除の阿姨などみんな優しく嫌な思いをすることがなかったです。また、クラス内は中国以外の世界各国から中国語を学びに来る子たちで年齢も幅が広いです。逆にクラスには先生以外中国人がいなく関わる機会が少ないので、自分から保安叔叔やキャンパス内にいる中国人に話しかけるなどの交流が必要かなと思います。留学に来て大切だと感じたのは英語です。世界共通言語なのでほとんどみんな英語を使って話しています。みんな英語が話せない私と話す時は中国語を使ってくれましたが、本当に勉強すべきと肌で実感しました。他にも母国の文化や世界の地理は頭に入れておくべきと思いました。授業中に自国の文化や祝日どう過ごすかなどたくさん聞かれます、地理はみんないろんな国から来ているので礼儀としてある程度わかっている方がお互い嫌な思いをしないと感じたからです。

3 留学を振り返って

(1) 留学を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを留学前の意識と比べて書くこと（400字以上）

留学を通じて成長したことは中国語力の向上はもちろんですが他にも自分の価値観や考え方が良い方向に変化したと思っています。

元々大学1年の際に参加した台湾研修で多少の中国語力には自信がありました。ですが留学開始当初は頼れる親も日本語も通じない環境で自信が下がっていました。ですが、どうあがいても中国語しか使えない環境なので声調や意味が間違っていてもとにかく話すことを意識しました。わからない単語が出てきたら必ず調べることや友達に聞くことをしていました。毎日が楽しい中国語の勉強で友達も会話中やチャットで文法が間違っていたら教えてくれて良い縁に恵まれたと思っています。また友達とお互いの国の文化について話しているときに知っているつもりでも説明できるほど知らなかったことや先入観で決めつけていることがありそれを指摘されたことがあり、注意をされて意識をすることができたので感謝しています。この年になって指摘をしてくれる人が少ないからこそ私の改善点を面と向かって言ってくれたので今後は気を付けたいと思いました。そして留学を通して自我を出すことも大事だと思いました。以前は消極的だったのですが、中国で生活をする上で積極的に行動することで語学力やメンタル面も細かいことが気にしなくなり切り替えが早くなりました。

(2) (1)を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400字以上）

留学を通じて得た中国語力の向上や多様性を理解する力は今後の学業や仕事に活かしたいです。現在の日本はインバウンドの方が多く中国語を使って接客をする環境が多くあり、そんな中でも自信を持ってコミュニケーションを取れるように引き続き中国語の学習を続け、実践的なスキルを磨いていきたいです。

さらに、留学中に他国の文化や価値観に触れたことで、柔軟な思考や多様性を尊重する大切さを学びました。これからの社会は多様性は大事になってくるものなので先入観に囚われず様々な人とコミュニケーションを図っていきたいです。また、他人からの指摘を受け入れ、改善する姿勢も得られました。友達などの第三者からのアドバイスをもらうことで自分が知らなかった改善点を知ることができ、より良い将来があるのではないかなと思います。そして積極的に行動することを心掛けるようになったことで、私生活はもちろん今後社会人になった後もチャンスを広げることができると感じています。

4 今後留学する人へのアドバイスや心構え、メッセージ等について、詳しく書くこと（400字以上）

一日一日を大切に楽しんでください。留学は時間的なものも含めて社会人になった後に簡単にできるものではないと思います。だからこそたくさんいろんな国の方と交流をして旅行をして振り返ったときに有意義な楽しい時間を過ごせたと自信をもって言えるくらいに全力で過ごしてください！

そして留学先でのご縁は大切にしてください、大切にしたら分だけ今後の自分に返ってくると私は思います。

また、日本人で固まるよりも違う国籍の人と仲良くなった方が中国語に自信がついたり、中国語以外の言語も知ることができます。皆さんの留学がより良いものになるように願っております。

長期留学成果報告書

留学先国及び留学先大学： 東呉大学（台湾）

留学期間： 2024年9月 ～ 2025年2月

1 留学先で学習した内容について、詳しく書くこと（400字以上）

授業についてまず、説明、書きはすべて中国語の繁体字で行われました。レベルでクラスが分かれているので自分のレベルに合わせて授業を受けることができるのでとても楽しかったです。私のクラスは秋学期が私を含めた日本人2人、韓国人1人、タイ人1人の計4人で授業を受けていました。先生によって説明の仕方が違うのですが、秋学期の先生はなるべく英語は使わず、パワーポイントを使って単語の意味を教えてくださいましたので授業がスムーズに進んでいました。さらに授業で使った単語をゲーム感覚で会話に入れる練習をしたり文章をつくりたりしていたのでかなり身につけやすかったです。感覚で会話に入れる練習をしたり文章をつくりたりしていたのでかなり身につけやすかったです。教えてくださいましたのでとても勉強にもなったし、発音練習にも付き合ってくださいましたのでとても楽しかったです冬学期になってからはまたクラスが変わって日本人が8人、オランダ人1人、タイ人1人、スロバキア人1人計11人での授業でした。先生も別の人になったので最初授業に慣れるのは大変でした。このクラスの先生は発音、作文に力を入れている先生だったのでクラスの人々の作文をリスニングで聞いて宿題でまとめる課題がでたり、感想を言ったりすることが多かったです。作文も先生が一人ひとりアドバイスを口頭で説明してくれたので自分の書きたいことを一緒にまとめてくれたのでとても勉強になりました。日本とは違ってオール中国語の授業で分からないところは英語で説明されるためなれるのはものすごく大変でしたが、わからないからこそ集中して授業を聞いたり、考えたりなどの本では体験できない授業を受けることができたのでとても良い経験をすることができました。

2 留学先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

寮については外国人寮なのでほとんどの人が違う国籍の人たちでした。その中でも日本人が半分いて、次に多いのはインドネシア人でした。共通語が英語だったので英語を話せない私からすると最初の一月はかなり大変だったのを覚えています。しかしみんな優しい人たちでほかの国の人に興味があったのか簡単な中国語を使ったり翻訳機を使ってたくさんコミュニケーションをとってくれるようになっていってとても賑やかな生活でした。私の部屋は私を含めた日本人2人とマレーシア人2人の三階の四人部屋で生活していました。文化、宗教の違いがあったので慣れるのにかなりの時間を使いました。彼女たちはイスラム教だったので日本人が配慮しなければいけないこともたくさんありましたが、今となっては宗教について考えたりお話を聞くことができたので勉強になりました。寮内には教室、ラウンジ、キッチンがあるので三階以外の人たちとも交流できる場がたくさんあるのでほとんどの留学生と交流することができたと思います。当然外国人なので考え方も違くて差別や嫌なこともたくさん経験しましたが、このことがなかったらこんな考え方の人もいるんだと教えてくれたというポジティブな気持ちでいることの大切さを教えてくれたような気がするので良い経験をさせてくれたなと思っています。意外だったのは中国語も少し話せるけど、日本語も話せる人がいることに驚きました。韓国人、アメリカ人の人たちが大学、趣味で日本のアニメを見ていたから話せるよと言ってくれたと嬉しく感じました。ほかにもこの「アニメ知ってるよ」「これ大好き」と言ってくれることがよくあるのでそこから仲良くなったり、たくさん交流することができました。さらに入口の近くに東呉大学の学生アルバイトが常にカウンターにいるので困ったときや中国語の質問があったときは助けてくれるのでとても頼もしいと思います。さらに私が留学していた時期は日本語学科の学生が二人いたので英語の説明がわからなかったら日本語学科の学生に確認したりしていました。大学が山に作られていてさらに奥に私の住んでいた寮があったので移動はかなり大変でした。東呉大学の学生に話を聞いたところ学生の間では「階段大学」と言っているほど階段がたくさんある点が意外でした。日本での生活は当然日本語が通じるし、日本人しかいないから寮してもらえることが多いですが、台湾は日本のように寮するという文化はないので少しストレスもありましたが、同時に直接的、伝えたいことをはっきり伝えることの大切さを知ることができました。

3 留学を振り返って

(1) 留学を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを留学前の意識と比べて書くこと (400字以上)

留学を通じて得たものは話しかけることの大切さを知ることができました。日本で生活していた時は家族、友人と常に生活していたので話しかけたりしなくてもいいという雰囲気でしたが台湾でははっきり物事を伝えないと誤解を生んでしまったりすることがあったので疑問点があったら仲いい人関係なく質問したりコミュニケーションをとっていました。外出するときも日本は文化も違うので困っているときは自分から質問していかないと訳の分からないことだらけだったので少し大変でしたが今となっては聞くことが当たり前になりました。この経験は日本での就職活動や生活でも生かすことができるなと感じました。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400字以上)

私はもともと人見知りで内気な性格だったので台湾留学が終わってからは日本での生活がとても簡単に思えるようになりました。質問もすぐできるので、台湾でお世話になった台湾人、外国人が来日した時は日本を案内していきたいと思いました。就職活動としては、説明会を聞いてわからないこと、教えてほしいことを企業の方の恥ずかしい気持ちもなく質問することができるようになったのでとても成長したと感じました。台湾で初対面の人たちとよく話していた経験から面接では自分の伝えたいこと、聞きたいことを緊張せず伝えることができるようになりました。台湾留学は語学学習を目的としていましたが、帰国してきた今語学だけでなく人として大切なこと必要なことまでも勉強することができたのでこれからもこの経験で培ったものを私生活、社会人になっても生かしていきたいです。

4 今後留学する人へのアドバイスや心構え、メッセージ等について、詳しく書くこと (400字以上)

自分は中国語があまりしゃべれないから、できないからという理由で留学に行くことをあきらめないでほしいです。私の学年は希望者が一人しかいなくて相談する人もいなくてもものすごくつらかったけど、一人で海外に行くことはこれ以降ない経験だったので結果論にはなるけど留学を決めて正解だったと感じました。台湾は日本人大好き！という人が多いので海外初めての人も少し生きやすい国でもあるし、親切な方が多い国でもあるのでぜひ挑戦してみてください。寮内は外国人寮ということもあって英語が話せないとコミュニケーションが難しい面もあるけど、話しかけたいという意思があれば乗り越えることができるはずなので心配しないで挑戦してほしいです。三年生という就活が始まっていくタイミングで留学に行くという大変さもあるし、日本にいる同級生が順調に就活を進めている話を聞くと焦る気持ちも多くなっていくと思いますが、留学中でもオンラインでの説明会に参加したり、留学しているということを伝えれば配慮してくれる企業も多いので心配しないでほしいです。もし、東呉大学に留学することが決まって不安ごと、心配事がある場合は先生を通して私に伝えていただければ助けることもできると思うので心配しないでほしいです。ほかの中国の大学も私以外の4人が留学経験があるので気軽に質問してください。

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等：ウーロンゴン大学（オーストラリア）

研修期間： 2025年2月15日（土）～2025年3月1日（土）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

現地では主に英語の授業の実践方法について学んだ。授業の展開例として、既習事項の想起並びに生徒の意欲向上を図る導入部、課題を提示し生徒が実践する展開部、本時に学習した項目を確認するまとめ部に構成されていた。どの箇所においてもコミユニカティブであること、生徒の個性や学習状況、精神状態に合わせた指導を行うことが重要視されており、生徒が学びやすく、学びを楽しみと思える環境整備が考えられていた。実際に ESL の授業を見学したところ、学生の方々は積極的にコミュニケーションを取っており、始終朗らかな雰囲気であった。また問いを投げかける際には、生徒が答えやすいように「人形をキャッチした人が答える」というバリエーション性が高い手法が採られており、改めて多様な学習環境の作り方があることを思い知らされた。

他にもオーストラリアの動物や貨幣、地域名、スラング、先住民族であるアボリジニの歴史などを英語を通して学ぶことができ、異文化や異国の歴史の奥深さを実感した。更には、現地の学校の高等部において日本語を選択している学生の方々の授業を見学させていただき、指導法について知ることができた。外国語としての学習のため配慮が必要なことは勿論、生徒によってレベルが様々であるため、一人ひとりを意識した授業づくりが欠かせなかった。そのため挨拶や簡単な指示等は日本語で行い、難しい指示については英語で行われていた。文法指導では、日本語から英語に変換させたり、英語の動詞と日本語の動詞を組み合わせる活動を行うことにより、生徒の文法能力や語彙の涵養を図っていた。全体的に非常にコミユニカティブであり、生徒たちも楽しそうであった。

このように本研修では、英語の授業の実践方法、指導や授業づくりにおける重要な事柄、外国語としての日本語学習における指導方法、オーストラリアの文化等について学んだ。今後はこれらを生かしていきたい。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

滞在形態はホームステイであり、一人暮らしをなさっている女性の方に迎えていただいた。普段日本語を学んでいるため英語でのコミュニケーションには不安が募っていたが、優しく、温かく受け入れてくださり、積極的に会話をしようと思えた。家でのルールや大学への行き方、家族やオーストラリアのことについて語らう中で、英語力やコミュニケーション能力の向上に努められたと感じている。特に印象に残っているのは、その方の家族を家に招待し肉じゃがを振舞ったことだ。料理は得意ではなかったが、「美味しい」と言ってくださり、大きな喜びを感じたのを覚えている。本当に良い出会いであり、交流になったと言える。大学内や街に行く人々は多様性に満ちており、その自由さには大変感銘を受けた。国を挙げて多様性が重視されていることの賜物だと感じた。またコミュニケーションが至る所で為されており、その中で礼儀や思いやりの精神、尊ぶ気持ちなども多くの方が持っていたため、非常に心が温かくなった。人と関わる上で大切なことを改めて考えさせられた。私も、今後は自由に、コミユニカティブに、そして思いやりの精神、自信を持って生きていきたいと思う。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

本研修を通じて成長したことは、英語力や教員としての指導力、関わろうとする力やコミュニケーション能力だと思っている。本研修より以前の私は、自分の殻に閉じこもってしまい、誰かと関わろうとしたり、助けを求めたりすることをしていなかった。そのため不安が常に付きまとい、精神面はあまり安定していなかったのだが、本研修は海外研修であるため、積極的にコミュニケーションをすることや、関わろうとする気持ち、助けを求める気持ちは欠かせず、気づけば自分からコミュニケーションを取るようになっていた。普段あまり話さない相手とも、外国語（言語）学習（特にアクティビティやペアワーク）を通じて英語力の向上の他、他者との心の距離が近くなるのだと改めて実感した。また教員としての指導力については、多様な授業づくりの方法があることや、生徒のレベル、状態に合わせた学習環境の整備が大切なこと、生徒との関わり方について詳しく知ることができた。学習意欲が向上すれば、生徒の能力も向上しやすい。そのため生徒一人一人の個性を尊重しつつ、何が最適かどうか検討し、多様な切り口で授業を展開していくことが必要だった。また生徒の反応は予想とは違うこともあり、臨機応変な対応も求められた。以前はただ教える、ただグループワークを取り入れるといったことしか考えていなかったが、これを機に生徒の個性や状況、反応等をしっかりと考えて授業づくりをしていきたいと思う。本研修では、コミュニケーションや他者との関わり、多様な考えを持つこと、自信や積極性を持つことの重要性を改めて感じた。更には異国の空気や街並み、人の温かさに触れることで、人間としても成長できたように感じる。本当に良い研修となった。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

まず、本研修で学んだ授業づくりや指導方法、学習環境の整備、生徒の個性尊重、生徒のレベルや状況に適した指導などを本年度の教育実習に役立てたいと考えている。教科は国語だが、生徒の意欲向上であったり、学びを楽しんでいると感じてもらえるかどうかについては、本研修で学んだ考え方等が必要となるだろう。例えば導入の部分で生徒の興味を惹きつけそうな話をしたり、ペアワークをさせたり、また生徒の意欲があまり無い場合に、所々で漢字やことわざ等のクイズを実施することも考えられるだろう。多様な授業の切り口を考え、生徒の個性を意識しながら授業づくりに励みたい。そして生徒に学びが楽しいと思ってもらえれば良いと思う。人と関わろうとする力や助けを求める力については、教員としても欠かせないが、社会人としては更に必要不可欠だ。組織の中で人間関係は仕事の充実感にも繋がるため、積極的にコミュニケーションを取ったり、分からないことはそのままにせず、しっかりと助けを求めたりしていきたい。そして何よりも、自分に自信を持ち、他者と関わり、思いやりの心を持つことは、人生をより豊かにしてくれるだろう。そのためこれまでの出会いや今後の出会い、他者と自分を大切に、生きていきたいと思う。

以上

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等： ハワイ大学マノア校（アメリカ）

研修期間： 2024年8月25日（日）～ 2024年9月15日（日）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

ハワイ大学マノア校でのNICEプログラムにおいて、印象に残った学習は大きく分けて2つあります1つ目は、飲食店や洋服店などといった様々な店舗におけるやり取りを想定したロールプレイです。店員と客の両方の役割を経験することで、実際の場面でスムーズにコミュニケーションが取れるよう、実践的な英語表現力を養うことができました。特に、店員側のフレーズの中には、これまで知らなかった言い回しや単語が多く含まれており、語彙力の向上に繋がりました。授業で学んだフレーズは、実際にハワイのお店を訪れた際にも活かすことができました。店員から英語で質問された際に、スムーズに返答できたことは、学習の成果を実感する貴重な経験となりました。

2つ目は、ハワイの文化に関する学習です。ハワイ語の発音、ピジン英語、神話、食文化といった多岐にわたるテーマを学ぶことができ、ハワイの文化への理解を深めることができました。特にハワイ語の発音は、私が事前に担任の先生に学んでみたいとリクエストしていた内容だったので、とても印象に残っています。大学の講義で既に学んでいた音声学や英語学の知識と照らし合わせながら、現地で発音を学ぶことにより、より深くその仕組みを理解することができました。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

研修先での生活を通して、現地の方のフレンドリーさがとても印象に残りました。今回の研修ではホテルに滞在した為、ロビーやエレベーター等で現地の方々と接する機会が多くありました。エレベーターを待っている間やエレベーターに乗っている間に、私が履いていたサンダルを驚くほど褒めてくれた人や、私が日本人であることに気づき「今度日本に旅行に行くんだよ」と声をかけてくれた人など、内容は様々でしたが沢山の現地の方と話す機会を持つことができました。日本ではあまり考えられない状況に当初は戸惑い、自身の英語に自信が持てず、上手く会話を続けることが出来ませんでした。現地での学習を進めていくうちに、段々と自分からも相手に質問できるようになりました。研修を通して沢山の皆様と交流することで、自ら積極的にコミュニケーションを取れるようになったので、僅かな時間であっても実際に現地の方との関わりを持てたことは、とても貴重な体験となりました。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

私は今回の海外研修を通じ、異なる環境に飛び込んで、実際に行動する機会を得ることの重要性をより実感しました。研修参加以前から、新しいことに挑戦することの重要性は感じており、意識して取り組んできましたが、自信のなさから一步を踏み出すことに躊躇していました。しかし、貴重な海外研修期間で挑戦すべき事は何かを自分なりに考え、失敗を恐れず沢山の人とコミュニケーションをとることを心掛けました。そして英語を使って積極的にコミュニケーションを取ろうとしていくうちに、自分の意識は大きく変化しました。特に、研修期間中は授業で学んだ内容を積極的に活用することを心掛けて生活していた為、現地の人との交流を重ねていくうちに徐々に自信をつけることが出来ました。そして活用できた際の成功体験は、私にとって大きな自信に繋がりました。改めて、自ら意識して行動しなければ何も変化を得る事はできないことを実感し、後悔なく研修を終えることが出来た事は、私にとって非常に良い経験になったと感じています。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

私は今回の研修での経験を、学習や卒業後の進路に関連付けながら活かしていきたいと考えています。まず、学生生活においては、研修期間中に実際に現地で学んだ英語の発音、リンキング等を授業などで意識して取り組みたいと考えています。研修期間中に学んだことを実際に活用する重要性を強く感じたので、授業や日常生活において英語を話す際、現地で学習した内容を活かせるよう、継続的に取り組むことが必要だと考えました。

次に、将来については、研修を通して変化した自分の意識を卒業後の進路選択において活用したいと考えています。これまでは自分には出来ない、自信がないと一線を引いて考えてしまっていた部分がありましたが、研修での成功体験や意識の変化をその時だけにせず、今後の自分の進路実現にも活用したいと考えています。

今回の海外研修を通して、これまでの自分に比べて積極性や自信が身についたと感じています。これは、決して何かに限らず、これから様々なことにおいて活かしていける経験だと感じています。研修で学んだこと、心境の変化、現地での全ての経験を今後の自己の成長に繋げていきたいです。

以上

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等： シーキューユニバーシティ（オーストラリア）

研修期間： 2025年2月15日（土）～2025年3月1日（土）

- 1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

オーストラリアでの授業では、主に英語でのプレゼンテーションの方法を学びました。具体的には、プレゼンテーションを効果的に始めるための導入方法や、正しい発音の仕方、話すトーンやペースといった基本的なスキルについて学びました。特に、聞き手を引きつけるための導入の仕方や、話のテンポ・トーンを調整する重要性を学ぶことができました。さらに、緊張を和らげる方法なども学びました。

また、授業スタイルは日本のものとは全く異なりました。講義中心ではなく、ディスカッションを重視した進行が特徴的でした。日本では先生が話し、学生が聞くという形式が一般的ですが、オーストラリアでは、学生と先生が互いに意見を交換しながら進めていくスタイルが主流でした。また、学生同士でも積極的に議論を交わし、自分の考えを他の学生と共有する機会が多く、参加型の授業でとても驚きました。参加型の授業のおかげでプレゼンテーションの技術だけでなく、英語で意見を述べる能力やコミュニケーション能力も自然と向上しました。また、学びの楽しさや深さを実感させてくれるものでした。
- 2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

オーストラリアでの生活を通して、現地の人々がとてもフレンドリーで親切だと強く感じました。特に、お店の店員さんやバスの運転手さんが、日常的に「今日はどうだった？」や「今日は何をしたの？」と気軽に声をかけてくれることが印象的でした。このような自然な会話が、自分にとって英語を学ぶ大きな刺激になり、実際に会話を通じて英語力を向上させることができたと感じました。さらに、ホームステイ先の家族や他の留学生たちも非常に優しく、毎晩の夕食時にはその日にあった出来事や、明日何を予定するかを皆で話し合う時間がありました。このような日常的な交流が、リスニング力を向上させただけでなく、自分の意見を英語でしっかり伝える力を養うのにも大いに役立ちました。そして、毎日楽しく過ごすことができました。また、現地の文化や価値観を直接体験し、異文化に対する理解も深めることができました。英語を使う環境に身を置くことで、言語だけでなく、コミュニケーションの大切さや異なる考え方に対する柔軟性も身につけられたと感じています。この経験は、私にとってとても貴重な時間でした。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと（400字以上）

この海外研修に行く前の私は、とても恥ずかしがり屋で、初対面の人と話すのがとても苦手でした。日本では、相手の気持ちや状況を察する文化が強く、自分の意見を積極的に話す機会はあまりありませんでした。しかし、この研修を通して、自分の意見をしっかりと言うことの大切さを学びました。特にオーストラリアでは、相手の話を聞くことはもちろん重要ですが、それ以上に自分の考えを積極的に伝えることが求められます。文化が異なると、考え方やコミュニケーションのスタイルも大きく変わり、意見を言わないと自分の考えが伝わらない場面が多くありました。最初は恥ずかしくて話すのが怖かったのですが、だんだんと自分の意見を英語で伝えることに慣れ、少しずつ自信がついてきました。この経験から、自分の考えをしっかりと表現することが、相手とのコミュニケーションをより深くするために必要だと実感しました。また、日本のような「察する文化」ではなく、自分の意見を明確に伝えることが、異文化の中でより良い関係を築くためには非常に重要だと学びました。この研修を通して、私のコミュニケーション能力は今までより成長したと感じています。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400字以上）

わたしのアルバイト先では、海外からのお客様と接する機会が多くあります。今までの私はお客様に話しかけられないと会話をしていませんでした。しかし、もっと自分から積極的に会話をしていきたいと思っています。特に、言葉や文化の違いを理解し合いながら、円滑なコミュニケーションをとることが大切だと考えています。そのためには、相手の話をしっかりと聞き、自分の意見を自信を持って伝えられるようにしたいです。言語に不安がある場合でも、表現方法を工夫することで、相手と理解し合えると思っています。

また、学校生活においては、他者の意見を尊重することを大切にしていきます。クラスでの議論やグループワークでは、自分の意見を主張しつつ、相手の意見にも耳を傾け、お互いに良い意見交換ができるよう心がけていきます。自分の意見をしっかりと伝えることは重要ですが、それと同時に他者の考えにも理解を示し、協力し合うことがより良い結果を生むと考えています。これらの経験を通じて、さらにコミュニケーション能力を高め、成長していきたいです。

以上

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等： ウーロンゴン大学（オーストラリア）

研修期間： 2025年2月15日（土）～ 2025年3月1日（土）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

研修先では、オーストラリアの動物、州や首都、お金、スラング、アボリジニ、授業の最初のアイスブレイク、発音、4技能を統合した授業の組み立て方、授業内でのアクティビティ、音楽を取り入れた授業の方法などを学習しました。動物や、州や都市の名前をあてる内容の授業は、1週目と2週目通して行われた。英語教授法についての授業は、1週目のみ行われた。一方的な講義の形式ではなく、アクティビティを取り入れることによって、参加型の授業形態が作り上げられていた。そして、アクティビティや、アイスブレイクを紹介する際は、中高生どちらの年齢の生徒に人気があるか、効果的なのかについても説明を受けることができた。また、KWLチャートを使用し、生徒がトピックについて何を既に知っているか、何を学びたいか、そして学習後に学んだかを記入することで、生徒が何をその授業で学んだのかについて可視化することができるものを知ることができた。二週目の授業では、他大学や、多国籍の学生たちと学び、自分の英語の発音や文法がどのくらい相手に伝わるのか、初対面の人たちにおいてアイスブレイクは効果的なのかについて身をもって体験することが出来た。二週間の研修の中でも私が一番印象に残った学びは、外国語を学ぶ動機である。日本語を学んでいる高校生の授業に参加させてもらうことができ、その中で他国の文化を自らの興味関心で学ぶということがどれだけすごいことなのかを、思い知った。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

私は、元々人とコミュニケーションをとることを好むため、この研修の前にホストファミリーや、現地の学生と沢山コミュニケーションをとることを目標としていた。しかし、最初の3日間ほどは、自分の発音の悪さやボキャブラリーの無さ、また相手の話に対してのリアクションのレパートリーが少なく、うまく会話をする事が出来なかった。しかし、ホストファミリーがいつでも聞く姿勢をとっていてくれて、学校が終わって帰ると「今日はどうだった？」や食事中は自分の家族のことや、日本のことについてなど沢山会話をしようとしてくれたおかげもあり、コミュニケーションをとることが楽しかった。また、毎日に違う手作りの料理を提供してくれたことに感動した。家には、犬が2匹いてその子たちとも会話をする事が日課になりとても充実したホームステイ生活を送ることが出来た。通学時にバスを利用していたが、日本と違い次のバス停のアナウンスがなく、慣れるのに時間がかかった。そして、物価が高く、学校の自販機の飲み物はどれも400円からで、驚きを隠せなかった。現地の方々は全員親切で、なによりとてもあたたかく始めてのホームステイの生活に緊張をしていたが、とてもいい経験にすることができた。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

この研修を通じて成長したことは、英語でのコミュニケーションを諦めないという点である。もともと、日本語と英語を混ぜて会話をする癖があったのだが、全部英語で伝えようという姿勢を崩さずに 2 週間過ごしたことで、相手に通じるようにどのように話せばいいかを考えて、過ごすことが出来た。しかし、会話の中で自分の発音や話す速さが原因で、伝わらないことが多くあったように感じたので、これからはリスニングやシャドーイングを通して、自分の苦手を克服していこうと考えた。また、第二言語を習得する目的は、なんなのかについても考えさせられた研修であった。私たち学生が英語を学ぶ理由として多く挙げるのは、受験やテスト、資格に必要だからである。しかし、オーストラリアの日本語を学ぶ高校生たちは、日本の文化が好きだから、とにかく日本が好きだからなどの内発的動機づけがあるうえで、日本語習得に励んでいた。自分の国の文化を他国の人がとても愛してくれていて、さらに言語を習得しようとしていることにもとても感動した。そして、改めて自分は学生と関わる職に就き、成長過程を見守りたいという思いを再確認することができた、実りのある研修であった。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

私は、幼い頃から英語の教員になりたいという夢をもって大学に進学した。しかし、大学生になってからは、本当に英語の教員が自分のなりたい、したいことなのかと考えることが多かった。この研修を通して、英語の教員になるという夢がゴールではなく、一つの過程だということに気づくことが出来た。今年、教員採用試験に合格し、私は、この研修で学んだ授業の組み立て方やアクティビティを使って、自分が英語を教えた子どもたちに、ただ受験のためテストのために英語を学ぶのではなく、楽しいから興味が湧くからという気持ちをもってもらえるようにしていきたいと感じた。また、日本語を学ぶオーストラリアの学生と交流をしたことで、自分の将来の選択肢として日本語教員も視野に入れたいと思うことができた。まずは、目標である英語教員になれるよう、今年行われる教員採用試験に向けてこれから本腰をいれ、勉強に励んでいこうと考える。そして、教員になるために英語を学ぶのではなく、コミュニケーションのツールとしてこれからも英語を学んでいきたいと感じる研修であった。

以上

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等： 北京語言大学（中国）

研修期間： 2024年8月3日（土）～ 2024年8月31日（土）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

クラス分けは、渡航前に行ったレベル確認テストをもとに現地で面談をし決められた。また、自分のレベルに応じてクラスを変更できる制度もあり、自分に合ったクラスを選択することができた。A～Eのレベル分けで、そのレベルに各3個ほどクラスがあった。授業科目は、総合、口語、ビジネス、読書の4つだった。総合では、新しい単語を学んだり、その単語の意味や使い方を学習した。日本の授業では目にしないような単語やネイティブ話者が使うような実践的な中国語を学ぶことができた。口語では、普段使うような中国語や早口言葉などを発音して学習した。星座や美容品、日用品などの単語を知れたり、早口言葉をゲーム感覚で練習したり楽しく授業を受けられた。ビジネスでは、将来社会人になった時に役立つ名刺交換や電話対応などをクラスメイトと実践したり、ビジネス用語を教わった。読書では、物語を読んで内容を理解したり、物語の動画を見たりした。クラスには、日本人、韓国人、イタリア人、ドイツ人と様々な国の留学生がいたので、各国の特徴や有名な場所などを発表しあう機会もあり、貴重な話を聞くことができた。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

今回の研修では、2人1部屋の留学生寮で生活した。

海外で家族以外の人と1か月生活することが初めてだったので、初めは日本と違う環境や家族以外の人と同じ空間を共有することが慣れず、ストレスになったり、住みにくさを感じた。特に、洗面台とトイレとシャワーが狭い部屋に全てあることが大変だった。一辺2mもないくらいの狭い部屋にあり、シャワーを使ったらトイレが濡れてしまうし、部屋の外まで水が出でしまうこともあった。ですが、部屋はとても綺麗で、寮の目の前にはコンビニがあり、大学の教室までは徒歩5分程度という便利さもあった。現地で日本との違いを最も感じたのは、店員さんの対応の違いだ。態度が悪いとか口が悪いなどマイナスな面ではない。日本は、お客さんが第一で、店員とお客さんの立場が対等ではないが、中国では立場が対等に扱われているような気がした。日本人からしたら失礼な態度をとっていると思うかもしれないが、無口な接客や店員同士が会話しながらする接客も中国の1つの文化ではないかと考えた。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと（400字以上）

今回の海外研修を通して自分自身が最も成長したことは、中国語を聞き取る力だと思う。研修前、私はリスニングが最も苦手だったし、初めの授業でネイティブの中国語を聞いた瞬間に全く聞き取ることができずに焦りを感じた。しかし、1か月の授業で中国語のみを聞いた結果、先生の話していることが半分以上理解できるようになった。耳に中国語が慣れてきたこともあるが、何より自分が前より聞く努力をするようになったと思う。先生の口を見て聞くことを意識するように心掛けたし、中国語で聞いた単語を日本語に変換する速度も速くなった。言っていること全てを理解できるわけではないが、自分にとっては成長の第1歩だったと思う。中国に初めて行ってみて、中国に持つ怖いイメージが少し変わった。中国に行く前、日本人が被害者となる事件や日本を悪く言うSNSなど中国人に対しての悪いイメージもあったし、不衛生というイメージもあった。実際は、日本人だからと差別されないし、嫌なことをされることもなかった。また、レストランや食堂などの食べものはとても美味しいし、不衛生と思うことも少なかった。それにより、自分は偏見を多く持ち、間違った偏見を信じていることがわかったので、これからは実際の経験や正しい知識を持とうと考えた。

(2) (1)を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400字以上）

今回の研修では、授業や生活全てで中国語を使うという日本ではできない体験をしたことで、自分の中国語力が向上した。また、まだまだ中国語の単語や使い方など聞いていてわからないことが多く、中国語で質問されたことに対する返しができないし、自分の持っている語彙の数が圧倒的に少なく会話がスムーズに進まないことがわかった。だから、日常的に使うことのできる中国語を覚える必要があると思ったので、これから中国のドラマを見たり、中国人と話してみたり普段の会話で役立つ中国語を学んでいこうと思う。生まれてからずっと日本で生活していて、1か月という期間を海外で過ごしたことがなかった。ニュースを見ていてのイメージや人から聞いた情報などで、海外は危ないと決めつけていたし、特に中国には怖い印象が強かった。今回、初めて中国へ留学に行き、中国独自の文化や習慣などを現地で感じられた。日本にも特有の文化があるように各国にも様々な文化や習慣があるので、それを否定するのではなくお互いに受け入れていくことが大切であると考えた。これからは自分の価値観や他人の意見などで偏見を作らず、まずは自分で経験してみたら判断できる人になれるよう努力します。

以上

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等： 東呉大学（台湾）

研修期間： 2025年2月10日（月）～ 2025年2月16日（日）

- 1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

挨拶 早安＝おはよう、午安＝こんにちは（早上好、晚上好は違和感）。一番使う挨拶は”吃了嗎”。

発音の特徴 巻き舌をあまり使わない。ボポモフォが使われている。台中の訛りは4声か1声に似ていて区別がつかない。台湾での「有」には強調と存在貌の意味が加わっている。人口は約4360万人で80%が西部に住んでいる。面積は約3万6千km²で九州とほぼ同じ。訪日台湾人は約600万人で4人に1人の割合。人間形成の3本柱 1 儒教、倫理観(社会性)。2 仏教、慈悲博愛(宗教)。3 道教、自然無為(美学)。屋台文化が盛ん、夜市。定食より「合菜」が好き。マナー 年配の人が先に食べる、主事が真ん中の席に座る。タブー 橋をごはんに差し込む。食べ残しやゲップはOK！ 伝統行事は旧暦に基づいて行われる。生活習慣 バイクが多い(1400万台以上!)、車は左ハンドル、運転マナーが日本より緩い。ほとんどがユニットバス。人間関係とコミュニケーション フレンドリーでオープンな性格、あっさり、面倒見がいい、おせっかい、距離感を感じない、ストレートな表現が多い(給料、家賃、結婚を聞く人が多い)、時間にルーズ、素食文化が根深くある。
- 2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

トイレトペーパーを流してはいけないところが思ったより少なかった印象。和式トイレの割合が多くて驚いた。

臭豆腐の匂いがきつかった、だけど匂いにするのはお店の前あたりだけであまり匂いが充満していなかったのが不思議だった。コンビニは主にファミリーマートとセブンイレブンで日本よりも広いイートインスペースがある。どこのコンビニにも独特の匂いのする卵が置いてあって(ホットスナック的な)一週間も滞在していると段々匂いに慣れてきた。台湾の地下鉄 MRT は色で分けられていて、日本より分かりやすかった。バイクが多くて事故にあうか不安だったが、歩行者優先でとても安全に過ごせた。台湾の人は静かな印象、道で邪魔になっても声をかけずに待っていたりする。話し声もうるさいと感じたことは一回もなかった。日本人よりもいい人が多いのかも。町中の新しく綺麗な建物は基本ホテルで古い建物が多い印象。古い建物は作り直さずに大事にしておくらしい。車と車の距離が近く、バス移動中ぶつかるんじゃないかとすごくヒヤヒヤした。食べ物は台南が一番おいしいと感じた、日本人に合う。台北の食べ物は味が薄め、素材の味のものが多いイメージ。日本よりも熱帯に近い位置にあるからか、町中に日本では見ない熱帯の木が沢山生えていた。緑が多い。町は意外と汚くない、ごみなどもあまり落ちていないし、日本の方が汚いかもしれないと思った。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと（400字以上）

チャレンジ精神が身についた。一週間毎日自由行動の時間があり、お土産を買うにも行きたい場所に行くにも自分でどうにかしなければならなかった。台湾での一週間で少しでも中国語を身に着けたいと思っていたので、先生やチューターがいる時でもできるだけ頼らず積極的に現地の人と話してみたり、わからない単語も調べてスマホを介して会話するのではなく、自分で話して会話するようにしていた。そうするとよく使うフレーズはだれかに聞いたり調べなくても出てくるようになった。またよりチャレンジ精神が沸いて行動範囲が広くなり、充実した台湾研修にできた。状況把握が研修前に比べてうまくなったと感じる。出発初日の羽田空港で突然飛行機のゲートが変更になった。自分と友達はあとは飛行機に乗るだけだからとゆっくり過ごしていたが、他の場所にいた友達が変更になったアナウンスを聞き逃さずみんなに報告してくれた。もしその友達がいなかったら飛行機には乗れなかったかもしれない。空港では飛行機に乗るまで油断はせずいつ何かが変更になっても余裕を持てるようにしようと思った。

研修前までは自分の中国語に自信がなかったけど、現地で自分の中国語が伝わると知って、自信をもって中国語で会話できるようになった。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400字以上）

中国語勉強に関わる様々なことにチャレンジしてみたい。今私が働いているカフェのお客さんの約二割が外国人です。今まではすべての外国人のお客さんに英語で接客してきたけれど、中国語の接客用語を覚えて中国人のお客さんには中国語で接客できるように努力していきます。また、今までの中国語の勉強は学校での学習以外にデュオリンゴで毎日5分程度レッスンをクリアするだけでした。台湾研修から帰り、日常生活で中国語と触れ合う機会が減ってしまったことから普段から、日常的に中国語を聞けるように中国語のドラマやアニメ、歌を聞くようにして中国語に触れる時間を増やしていきたいと思いました。

研修前までは自分の話す中国語に自信がなく、自分より上手な人の前で話すのに躊躇していた。しかし台湾研修中にKクラスの友達から前にクラス合同で発表した自分の中国語がKクラスの子たちに褒められていたことを聞かされうれしさと同時に自分の中国語に自信を持つことができました。このことから二年生から始まるスピーチコンテストなどみんなの前で中国語を発表する行事に積極的に参加しよる自分の中国語に自信をつけていきたいと思った。

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等： アジア研修（シンガポール）

研修期間： 2024年9月5日（木）～ 2024年9月11日（水）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

JTB シンガポール支店では、旅行業のビジネス戦略や今後の発展において「サステナビリティ」を掲げ、ビジネスと旅行を支えるために行っている多様な取り組みについて学んだ。さらに、シンガポールがアジアのビジネス拠点として選ばれ、経済大国として成長した理由や、教育水準の高さについても伺うことができた。現地ビジネスマンとの会食では、海外での勤務生活や自己プロデュースに関する話を聞き、得た情報を実践し、就職活動に活かしたいと考えた。フードバンクでは、多文化が共存する中で、利用者の生活スタイルに合わせて食品や生活用品をパッキングしていること、その大半がボランティアの活動によって支えられていることを知る。実際に食料庫を見学し、食品がカテゴリーごとに分けられ、スムーズに作業が進められるような工夫がされていると感じた。政府のサポートがない中で、飢餓や貧困への支援、食品廃棄問題は日本だけでなく世界中で深刻な問題であると実感した。アルビレックス新潟シンガポールでは、海外進出からビジネスの成功に至るまでの話を聞き、人材育成のビジネスを確立しながら、CSR 活動を通じて現地の人々との交流を深め、企業としての存在感を高めていることを知る。育った環境や文化の違いから、日本人向けの教育方法では不十分な面もあり、苦勞するという話を聞き、異文化理解について考えるきっかけとなった。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

国の面積が日本の東京 23 区ほどしかないことから、観光地が比較的密集していると感じた。土地が限られているため、建物は縦に大きくなっているが、自然を取り入れた景観のおかげで圧迫感は感じなかった。さらに、車の所有に制限をかけることで渋滞を防ぎ、手頃な価格で利用できるタクシーやバス、地下鉄、貸し出し自転車などのビジネスが展開され、利便性を保つための工夫があった。日本は単一民族国家ゆえに、国内では日本人以外が目立ちやすいが、多民族国家では多様な人々が共存し、さまざまな言語が飛び交う日常が特に印象的だった。自主研修で訪れたプラナカン博物館では、シンガポールには独自の文化がないというイメージを覆すような伝統的な展示があり、興味深かった。チャイナタウンやアラブストリートのように、国を越えずに他国の文化を体験できる場所があることも大きな魅力だと感じた。また、移住者にとって、母国の文化や宗教を身近に感じながら生活できることは、大きな利点であると考えた。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと（400字以上）

初めての海外渡航であったため、まず第一に自分の英語がどこまで通じるのかという不安があった。現地では、決まったフレーズを使うことで精一杯な場面も多く、ノンバーバルコミュニケーションに頼ることもあったが、英語を使って生活するという経験は非常に貴重で、有意義であったと感じる。英語と母語の二言語を自在に使いこなす、生活している人々がいる環境に身を置いたことで、英語を習得することの重要性を改めて実感した。また、シンガポールでは異文化をただ受け入れるだけでなく、それらを融合させた「プラナカン」という独自の文化を持っていることを知り、強い衝撃を受けた。プラナカン博物館を訪れ、住居や食器、衣服などの華やかな展示品を目にすることで、歴史や文化に対する理解が一層深まったと感じている。滞在中、赤道直下のシンガポールでは日照時間が年間を通じてほぼ変わらず、季節は乾季と雨季の2つだけであることが、日本との大きな違いとして印象に残った。四季折々の美しい景観や、季節ごとの味覚を楽しめることが、日本を外から見た際に改めて魅力的だと感じた。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400字以上）

シンガポールが経済大国へと成長した経緯や、日系企業が共通して「サステナビリティ」を意識した事業を展開していることから、持続可能な成長や環境保護、社会的責任が現代の企業活動において重要なテーマであることを学んだ。これらのテーマは、今後の学生生活にも決して無関係ではないと感じている。また、シンガポールは多様な文化を受け入れ、共存できるように法制度やインフラ、教育を整備した結果、多民族国家として成り立っていることを実感した。さらに、海外での生活を通して、英語を話せることの利点について改めて考えた。多国籍の人々と円滑にコミュニケーションを取るためには、英語は欠かせないスキルであり、英語を通じて異文化に触れ、国際的な人脈を築くことも可能だと感じた。日本に住んでいる限り、英語が分からず困ることは少ないが、将来の選択肢を広げるために、まずは英語を扱えるようになることが重要だという意識が強くなった。残りの学生生活では、自身が興味を持つ分野と並行して、語学習得にもさらに力を入れたいと考えている。

以上

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等： ウーロンゴン大学（オーストラリア）

研修期間： 2025年2月15日（土）～ 2025年3月1日（土）

- 1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

研修期間 2 週間のうち、1 週目は明海大学の学生のみでクラスが構成され、午前中は英語の授業が実施された。授業内容としては、アイスブレイク、スラング、ブレインブレイク、発音、KWL といった教育に関するものや音楽を使った授業、大学内のキャンパスツアーなどがあった。アイスブレイクに関する授業では、アイスブレイクを行う意味について考えたり、アイスブレイクを実践したり、アイスブレイクの例をいくつか紹介してもらったなどした。スラングに関する授業では、オーストラリアで使われている言葉を学んだ。例えば、breakfast は brekkie、avocado は avo となることである。このスラングは、大学内のカフェテリアで何度か実際に使われている場面を見かけることもあった。ブレインブレイクに関する授業では、何事においても集中することから離れて休憩をとることが大事であると学んだ。発音の授業では、日本語でいう早口言葉のようなもので「R」と「L」の発音練習を行ったり、KWL の授業では、K(know : 知っていること)、W(want to know : 知りたいこと)、L(learned : 授業を通して学んだこと)をそれぞれ表に記して行う授業法を学んだりして、とても興味が湧いた。音楽を使った英語の授業では、実際に教授が歌う歌を聞いて、歌詞の穴埋めをする活動や歌を聞いて正しい順に歌詞を並べるといった活動をした。また大学内のキャンパスツアーでは、現地で日本語を勉強している学生がツアーをしてくれたり、移動中にコミュニケーションを取ってくれたり、終始私達に寄り添ってくれてとても嬉しかったことを覚えている。2 週目は、他大学の学生と一緒に Integrated English Class の授業を受け、オーストラリアについての知識や動物などについて学習した。
- 2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

派遣先での滞在方法は、ホームステイであった。他の学生はペアでホームステイ先に割り振られたが、私は1人だったので、現地に行く前は緊張していた。私のホストファミリーは、夕飯を18時頃から食べ始め、20時には就寝し、朝は早く起きるという生活をしていたので、日本ではなかなかないような生活リズムであった。ご飯に関してメイン料理のみが食卓に並ぶということが多く、もちろんのことだが日本のように白米、みそ汁、メイン料理という形ではなかった。文化の違いを感じた。買い物の際は、現金を使って買い物をしている人はほぼ見られず、多くの人がクレジットカードを使って買い物をしていた。オーストラリアはビーチが多くあるため、天気の良い日には会社や学校帰りの人たちが水着に着替え、ビーチに泳ぎに行くようであった。時には朝早くから泳いでいる人も見られた。また私のホストファミリーには8歳と2歳の子供がいたが、8歳の男の子は日本でも人気のポケモンカードを集めていたり、マリオカート、ゼルダの伝説などのゲームをしており、日本の文化が海外でも人気であることが分かりとても印象に残った。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと（400字以上）

この海外研修を通して、私は英語力を伸ばすことができた。今までは自分の意見に対して理由を具体的に伝えることができなかったが、この研修を通して理由を具体的かつ論理的に伝えられるようになった。また、日本の親切さと日本文化の影響力を感じることもできた。オーストラリアのバスは次にどこに止まるかなどが一切アナウンスされないため、降りたい場所をあらかじめ覚えておいたり、今自分がどこにいるかを調べたりしながら乗車しないとイケなかったため、日本に帰ってきてから日本の公共交通機関の親切なサービスに改めてありがたみを感じた。また、日本で有名なポケモンカードやマリオカートなどがオーストラリアでも流行っていることを実際に目にしたので、日本の文化が異国の地で大きな影響を与えていることにさらに素晴らしさを感じた。また授業法に関しても、アイスブレイクやブレインブレイクなどが有効だとは知っていたが、なぜそれらをすべきなのか、それらが大切な理由は何なのかを得ることができたので、とても意義のある研修となった。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400字以上）

今回の研修で成長させることができた英語力は、まずはアルバイトでの海外のお客様とコミュニケーションを取る時に活かしたいと思う。私のアルバイト先は、たくさんの外国人観光客が訪れる場所なので、英語を使ったコミュニケーションは欠かせないと言っても過言ではない。今回身に着けた英語力は、困っている人たちの助けになったり、さらに楽しく過ごせるようなおもてなしに繋がると思うので、積極的に活用していきたい。また、将来は教育現場に立ちたいという思いがある。基本的な会話例を挙げる時や英語を使って説明する時、お手本を示す時などに、今回の研修を通して学んだ表現や具体的に話すことの大切さなどを活かすことができると思うので、今回の研修を通して学んだことを大切に、将来に繋げていきたい。

以上

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等： ハワイ大学マノア校（アメリカ）

研修期間： 2025年2月9日（日）～ 2025年3月2日（日）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

ハワイ大学マノア校の NICE プログラムでは、英語のコミュニケーション能力向上を目的とした授業が提供されました。プログラムの初日にはレベル分けテストが実施され、参加者は自分の英語レベルに合ったクラスに振り分けられました。授業は月曜日から金曜日まで行われ、1コマ50分のクラスを受講しました。授業の形式は、講義形式だけではなく、ペアワークやグループワークを取り入れたアクティブラーニング型の授業が多く、実際のコミュニケーションの能力を高めることに重点が置かれていました。

特に印象的だったのは、プレゼンテーションとディスカッションの授業です。プレゼンテーションの授業では、英語での論理的な話し方やスライドの作り方を学び、最終的にクラス前員の前で発表する機会がありました。日本語では自然にできることでも、英語では難しく感じる事が多く、発音や表現の仕方に苦労しましたが、先生のフィードバックを受けることで、より分かりやすいプレゼンができるようになりました。ディスカッションの授業では、異なる国籍の学生と意見を交換しながら、英語での議論の進め方を学びました。単に英語を話すだけでなく、相手の意見を尊重しながら自分の考えを伝えることの重要性を学びました。

また、授業以外にも、ハワイの文化を体験する機会が多くありました。フラダンスのワークショップでは、ハワイの伝統文化を実際に体験し、その歴史的背景を学びました。さらに、ビショップ博物館を訪問し、ポリネシアの歴史やハワイの自然環境について学ぶ機会もありました。こうした活動を通じて、単に英語を学ぶだけでなく、異文化理解を深めることができたのはとても貴重な経験でした。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

ハワイでの滞在は大学寮です。ホームステイの形式ではなく、学生同士で滞在し、朝食や夕食を一緒にとりながら、日常会話を通じて英語を実践的に学ぶことができました。みんなとても親切で、特に、週末には一緒にビーチに行ったり、ローカルのマーケットを訪れたりする機会があり、観光客とは違った視点でハワイを体験することができました。

また、現地の人々との交流を通じて、ハワイの人々のフレンドリーさや、多様な文化が共存する社会の魅力を実感しました。例えば、スーパーマーケットで買い物をしていると、見知らぬ人が気軽に話しかけてくれることがありました。日本ではあまり見られない光景だったので最初は戸惑いましたが、次第に自分からも積極的に会話をするようになりました。これによって、英語を話すことに対する抵抗感が減り、日常的なコミュニケーション力が向上しました。

そして、NICE プログラムの一環として、ハワイ大学の現地学生と交流する「インターチェンジ」という活動がありました。ここでは、ハワイ大学の学生とペアになり、お互いの国の文化や生活について話す機会が設けられていました。日本について説明する際に、英語でどのように表現するか悩むこともありましたが、相手が興味を持ってくれることで会話が弾み、自信につながりました。現地の学生からは、ハワイの大学生活や就職事情などについて話を聞くことができ、日本との違いを知る良い機会となりました。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと（400字以上）

研修前は、自分の英語力に対する不安が大きく、特にネイティブスピーカーとのコミュニケーションに自信が持てませんでした。しかし、NICEプログラムでの授業やホームステイ、現地の人々との交流を通じて、英語を使うことへの抵抗感が徐々に減り、自信を持って会話をすることができるようになりました。特に、英語を間違えることを恐れずに積極的に話すことが、コミュニケーション能力を高める上で非常に重要だと実感しました。授業で学ぶだけでなく、実際に現地の人々と接することで、語学の実践的なスキルが向上しました。

また、異文化の中で生活することで、自分の価値観や考え方が大きく広がりました。日本では当たり前だと思っていた習慣や価値観が、ハワイでは異なることが多く、その違いを受け入れる柔軟性が身につきました。例えば、ハワイの「Aloha spirit」と呼ばれる助け合いの文化には深く感動しました。人々が非常に親切で、フレンドリーな態度で接してくれることにより、心温まる体験がたくさんありました。こうした文化の違いを実際に肌で感じることで、異文化理解の重要性を改めて認識しました。

この研修を通じて得た経験は、今後の人生においても大きな財産となることでしょう。言語だけでなく、異なる文化との対話を重ねることで、自分自身を豊かにし、広い視野を持つことができるようになりました。これらの学びは、国際的な視野を持つ人間として成長するための重要なステップだと感じています。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400字以上）

今回の研修で得た経験は、今後の学生生活に大いに活かしていきたいと考えています。

まず、英語力の向上については、今回学んだコミュニケーションスキルを維持するために、日常的に英語を使う環境を整えることが重要です。具体的には、英語で日記を書くことや、英語のニュースや書籍を読む習慣をつけたいと思います。こうした取り組みを通じて、学んだ内容を忘れずに定着させ、より自然に英語を使えるようにします。

さらに、研修を通じて深く理解した異文化理解の重要性も持続させるために、国際交流イベントや留学生との交流を積極的に行いたいと考えています。友人や知人を通じて多様な文化に触れ、その中でコミュニケーションを楽しむことで、実際の体験を通じて学びを続けられると思います。将来的には、海外インターシップや留学にも挑戦し、実際の環境でグローバルな視点を養うことを目指しています。

この研修は、英語力を向上させるだけでなく、自分自身の視野を広げ、異文化への理解を深める貴重な機会でした。多様な価値観に触れることで、自分の考え方や行動にも変化が見られるようになりました。今後もこの経験を大切にし、学び続け、成長していきたいと思います。自分自身のスキルアップや人間的成長を図るために、積極的に行動していく所存です。

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等： アジア研修（シンガポール）

研修期間： 2024年9月5日（木）～ 2024年9月11日（水）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

今回、シンガポールに研修で向かうにあたって、シンガポールに関する事前学習を講義内で行い、訪問する企業についても調査しました。具体的には、JTB シンガポール支店、フードバンク、そしてアルビレックス新潟の三つの企業を訪問しました。

JTB シンガポール支店では、各自が JTB の企業について調べ、疑問に思ったことを質問する場を設けていただきました。実際の業務内容やシンガポールにおける観光業の現状について学ぶことで、理論だけではなく実践的な視点も得ることができました。スタッフの方々はとても親切で、具体的な事例を交えながら丁寧に説明してくださり、私たちの質問にも積極的に応じていただきました。

フードバンクでは、食料支援の重要性やその取り組みについて理解を深めることができました。実際にフードバンクの運営方法や、どのように地域の人々に支援を行っているのかを知ることによって、社会的な課題に対する意識が高まりました。

アルビレックス新潟では、スポーツを通じた地域貢献や国際交流の取り組みについて学びました。プロスポーツクラブがどのように地域と連携しているのかを知ることができ、スポーツの力を再認識する貴重な機会となりました。

これらの訪問を通じて、各企業の取り組みやシンガポールの文化、社会に対する理解が深まり、私の視野を広げる素晴らしい経験となりました。今後の学びに活かし、より広い視点を持って行動していきたいと思えます。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

今回の海外研修でシンガポールに 7 日間滞在し、シンガポールで暮らす人々との交流やさまざまな文化に触れることができました。

まず、チャイナタウンでは中華系の料理を食べる機会が最も多く感じました。中華系の屋台街があちこちに設置されているため、手軽に食べに行けるのが大きな理由だと思います。屋台の雰囲気は活気があり、地元の人々と共に食事を楽しむことで、より一層シンガポールの文化を体感できました。

次に、リトルインディアでは事前に人気だと調べていたミルクティーを飲みました。イスラム教ではお酒やタバコが禁止されているためか、非常に甘党の人が多く、ノーマルのミルクティーが驚くほど甘かったです。甘さに少し戸惑いながらも、その独特の味わいを楽しむことができました。

また、シンガポールのモスクであるサルタンモスクを見学しました。美しい建築と荘厳な雰囲気が印象的で、イスラム教の文化や信仰について学ぶ貴重な機会となりました。訪れることで、異なる文化や価値観への理解が深まり、心に残る体験でした。この研修を通じて、シンガポールの多様な文化を実際に体験できたことは、私の視野を広げ、将来にわたって大きな影響を与えると感じています。

今後も異文化交流を大切に、学びを続けていきたいと思えます。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと（400字以上）

私は英語が全くできないものの、海外には三回ほど行ったことがあり、あまり心配はしていませんでした。しかし、初めての集団生活だったため、仲間内での不和が起こりやすいことが多くありました。その主な理由は、慣れない海外での生活や共同生活、そして反りの合わないグループとの共同研修などでした。

何度も仲間内で話し合いを重ねましたが、ずっと一緒にいると疲れてしまうこともありました。そのため、その時は少人数で別行動をしてリフレッシュする機会を作るようにしました。こうすることで、仲の良い関係を保つ努力をみんなでしたしていました。

今回の研修を通じて、コミュニケーションの重要性や、反りの合わないグループとの関わり方について学びました。また、お互いの意見や感情を尊重することの大切さも改めて感じました。少人数での活動を通じて、より深い絆も築けたと思います。

最終的には、みんなで協力して問題を乗り越え、より強い絆を持つことができたことに感謝しています。この研修で得た経験は、今後の人間関係や集団での活動にきっと役立つと思います。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400字以上）

今回のシンガポールでの研修を通じて、私は多くの貴重な経験を得ることができました。特に、コミュニケーションの重要性や、異なる意見を持つ仲間との関わり方について学びました。初めての集団生活では、思った以上に不和が生じやすいことを実感し、慣れない環境での共同生活の難しさも痛感しました。しかし、何度も話し合いを重ねることで、相手の意見を尊重し、お互いに理解し合うことの大切さを学びました。

また、長時間一緒にいることによる疲れを感じた際には、少人数で別行動をすることでリフレッシュできたことも大きな発見でした。このように、自分自身の心のケアや、仲間との関係を良好に保つための工夫が必要だと感じました。

これからの生活では、これらの経験を活かし、コミュニケーションを大切にしながら、柔軟な思考を持つよう心がけたいと思います。特に、異なる意見や価値観を持つ人々との交流を積極的に行い、互いに学び合う姿勢を大切にしたいです。また、ストレスや疲れを感じたときには、適度に距離を置くことも意識し、心の健康を維持しながら人間関係を築いていきたいと考えています。

この研修で得た教訓を基に、より豊かな人間関係を育んでいけるよう努めていきます。

以上

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等： アジア研修（台湾）

研修期間： 2025年2月23日（日）～ 2025年3月1日（土）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

今回の海外研修で今回の海外研修では、JTB、三井住友銀行、楽天モンキーズの3つの企業を訪問した。JTBでは営業部が非常に重要だと学んだ。営業は単にツアーを売るだけではなく、顧客と現地の架け橋となり、条件をもとにできるだけ魅力的なプランを提案することが求められる。また現在では、九份以外の観光地の魅力を発信するバルーンチェーン戦略を進めており、台湾観光の新たな可能性を模索していることが印象的だった。三井住友銀行では、台北支店の業務について説明を受け、特にグリーン預金やサステナビリティリンクローンといった環境・社会に配慮した金融商品について学んだ。実際に営業活動で使用されている資料を基に、ビジネスマッチングの提案やファイナンスのアレンジについての具体的なプロセスを知ることができた。楽天モンキーズでは、副代表の磯江厚綺さんから、挑戦し続けることの大切さを学んだ。磯江さんは元々観客として球場に足を運び、その後アルバイトを経て副代表にまで上り詰めた。普通の人ではできない行動力とチャンスを掴む姿勢が、キャリア形成においていかに重要かを実感した。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

台北での生活は、基本的には日本と大きく変わらないように感じたが、細かい部分では違いも多く見られた。例えば、駅では改札前から飲食が禁止されており、日本のようにペットボトルを持ちながら歩く光景はほとんど見られなかった。また、毎晩開催される夜市は非常に賑わっており、簡単に歩ける状況ではなかった。だが、現地の人々はその環境に慣れているのか、混雑の中でもスムーズに移動しており、文化の違いを実感した。またガイドの方によると、台湾は人口が多いため、ほとんどの住居がマンションや高層ビルになっているとのことだった。日本では一戸建ても多いが、台北では限られた土地を有効活用するために高層住宅が主流になっていると聞き、都市計画の違いを感じた。また、三井住友銀行での説明でもあったように、台湾は環境保護に力を入れている国でもある。街を歩いていても、ゴミがあまり落ちておらず、清潔な印象を受けた。現地の人々との交流を通じて、台湾の人々は親切でフレンドリーだと感じた。夜市で食べ物を買う際にも、店員の方が笑顔で対応してくれたり、簡単な日本語を使って話しかけてくれることが多かった。台湾が「親日国」と言われる理由がわかった。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと（400字以上）

研修前の準備では台湾の経済状況や半導体産業、中国との関係性についてや3C分析を行い、各企業の強みや課題を具体的に把握することができた。だが現地の社員さんへのプレゼンテーションに対して自信が持てなかった。しかし、15回にわたる授業内のプレゼンテーションや、現地の社員の方々の前での発表を経験することで、プレゼンテーションスキルが向上できたのではないかと思った。特に、現地の社員の方々から「良くできた」と評価をいただいたことは自信につながったが、自分自身ではもっとより良いものを作れたのではないかと思った。先生から「数をこなせばもっと良くなる」とのアドバイスを受け、今後も積極的にプレゼンテーションの機会を設け、スキル向上させていきたいと考えている。海外研修を通じて得た経験は、自分を大きく成長させたものだった。研修前の自分と比べて、知識やスキルだけでなく、自己表現力や異文化理解力も向上したと感じている。今後もこの経験を活かし、更なる成長を目指して努力していきたいと思う。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400字以上）

今回の研修を通じて、自分はプレゼン力や情報収集の大切さを実感し、実際のビジネスの現場で実践から学ぶことができた。この経験を、今後の学生生活ではさらに活かしていくには、授業や課外活動でプレゼンの機会があれば積極的に挑戦し、相手に伝わる話し方や論理的な構成を意識して実践を重ねていくこと。また、3年生からのゼミではマーケティングや経済の知識をより深く学び、ビジネスの視点を持ちながら物事を考えられるようになりたい。異文化理解の面でも、海外の人と交流する機会を増やし、異なる価値観の中で柔軟に対応できる力を養いたいと思っている。将来は、この研修で学んだことを活かし、どんな環境でも通用するスキルを身につけていきたい。将来は営業をすることを考えているので、論理的に考え、相手に伝える力は絶対に必要になる。海外研修で学んだ経験を基に、プレゼン力や分析力、異文化対応力をさらに磨き、どの業界でも活躍できる人材を目指していきたい。

以上

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等： ハワイ大学マノア校（アメリカ）

研修期間： 2024年9月3日（火）～ 2024年9月10日（火）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）
ハワイに行く前は、ハワイをリゾート地だと思っていました。しかし、自己学習や今回の研修を通じて、ハワイには多くの移民が生活しており、リゾート地の側面だけでない、背景や生活様式を学ぶことができました。初日にはハワイの文化や歴史に触れる機会があり、その後の経済に関する講義や住宅見学を、より深い視点で学ぶことができました。2日目からは、ハワイ大学での本格的な講義が始まりました。ハワイの不動産事業について統計データを用いて学び、特に印象的だったのは、ハワイの授業が「参加型」である点です。発言の機会やアイスブレイクが多く、日本の授業にも取り入れたいと感じました。また、タイムシェアやコンドミニアムについて、実際の物件を見学しながら学ぶことができ、運営方式や管理費、収益分配などの疑問点も解消できました。特に、リゾート地ならではのハワイの集合住宅は、専有部分以外の共有部分に力を入れている印象を受けました。トレーニングジムやパーティー会場、プライベートプールなどがありました。物件見学以外にも、ワイキキ周辺などのフィールドワークも多かったです。ハワイで働いている現地の方々や日本から移住しているの方々からたくさんの刺激をもらった7日間でした。これを今後の自分の力にするのはもちろん、在学生にも共有できるように学んだことをまとめていきたいです。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）
研修期間中、ハワイ大学の寮に滞在しました。ハワイ大学には日本人を含む世界中からの学生が集まっており、今回も多くの大学生が寮に滞在していました。ハワイ大学の学生によるキャンパスツアーでは、200以上の学位プログラムに対応する多様な施設を見学でき、異文化が混ざり合った環境が強く印象に残りました。キャンパス内も自然豊かで生徒も自由に過ごしているのが勉強するのにも最適な場所だと思いました。少ない時間でしたが、私もハワイ大学の学生のように講義を受けて合間に学食を食べたりしたことで、楽しい体験ができたと感じています。また、現地の生活において特に印象的だったのは、チップ制度です。日本にはない文化で最初は戸惑いましたが、サービスの質向上や労働者の収入補完としてチップが機能していることを理解しました。特に、寮の部屋のクリーニングやお店での買い物など、さまざまな場面でチップを渡すことが求められ、ハワイのサービス業の仕組みについて学ぶ貴重な機会となりました。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと（400字以上）

この7日間の研修を通じて、国による文化の違いや考え方の違いを学び、多様性への理解が深まりました。ハワイを観光目的ではなく、事前学習や講義を通して学んだ経験は、非常に貴重なものとなりました。特に、ハワイの歴史や文化に触れた後に私が思う「集団で生きる街」というハワイの印象は、今後自分が育ってきた街の文化や歴史についても学びたくなるきっかけとなりました。

また、人生でこれまでにないほど英語に触れた7日間でもありました。特に、「書く、読む」よりも「話す・聞く」スキルが試され、最初はついていくのが難しかったものの、研修が進むにつれ、自然と英語でのコミュニケーションがとれるようになったと感じています。英語で話すことへの恐怖心が薄れ、むしろ会話を楽しむようになった一方で、さらなる語学力向上の必要性も痛感しました。

そして、ハワイでは車がないと移動が難しい場所がいくつかありました。そこで、ハワイの各地に設置されているレンタル自転車を活用できたこともいい経験となりました。土地勘がない状態で道路を走るのは不安ではあったものの、徒歩よりも広範囲をまわることができたので車では通りにくい場所にも気軽に立ち寄れました。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400字以上）

今回の研修を通して、観光ではなく留学という形でハワイに行けたことは、本当に良い経験となりました。特に、現地での授業やフィールドワークでの質問を通じて、日本とハワイの教育スタイルの違いを実感しました。日本の授業よりも生徒に積極的な発言を求め、質問することが推奨される雰囲気がありました。毎時間、質問を考える力が鍛えられ、質問することの重要性に気づかされました。

また、ハワイの文化や考え方に触れたことがよかったと思います。初対面でも積極的に話しかけてくれたり、出会ったら握手やハグで迎える温かさに驚きました。

今後は、この経験を学生生活や将来のキャリアに活かし、人と話す際には「理解する」だけでなく、質問を通じてさらに理解を深めていく姿勢を持ち続けたいと思います。社会に出た際にも、積極的に質問し、相手の意図をより深く理解できるようになりたいと考えています。そして、研修を通して得た学びや経験を自分の成長につなげ、今後の学生生活やキャリア形成に役立てていきたいと思っています。

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等： ハワイ大学マノア校（アメリカ）

研修期間： 2024年8月26日（月）～2024年9月6日（金）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

今回のハワイ大学での講義すべて興味深い内容でしたが、ハワイの観光と経済という講義は特に印象的でした。この講義を受けるまで私はハワイに対して、多少物価が高いがリゾートや観光客が多いというイメージから、地域としては裕福な人が多いだろうと思っていました。しかし実際には私が少し歩いただけでもすぐ見つけられるほどホームレスであろう方がいらっしゃいました。もちろんお金を獲得するため、観光客が多い場所にいるのは当然ですが、講義をしていただいた先生もホームレスの多さを問題視していました。先生のお話によると、ハワイでは観光に関する仕事があまりにも多く一人一人の給料は多くないとのこと。給料が少ないことで一人一人のサービスが低下する問題があると述べていました。さらに観光に関連した企業が多すぎるために、優秀な技術や知識を持った人材がハワイから離れてしまっているとのこと。観光は経済にとってはプラスだが、過剰な観光はそこで働く人の満足度を低下させたりホームレスの増加につながるという課題があると学びました。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

今回ハワイに滞在して印象に残っているのは人のやさしさです。優しさを感じたエピソード1つ目は、滞在中ほとんどの車が横断歩道を譲ってくれました。法律上譲ることは当然なのかもしれませんが、12日間の滞在中2回ほどしか無視されなかったことを考えると、意識して譲っている方が多いのではないかと考えます。2つ目はハワイで働く方がとても親切だったことです。基本的にどこの従業員であっても私の伝えたいことを汲もうとしてくれている印象を受けました。特に2日目に利用したバスの運転手の方は私が乗ろうとしているバスは正しいかしっかり確認してくださり、私が目的地近くのバス停で降りたときは目的地までの道を教えてくださいました。またハワイで暮らす人が優しいのはもちろんハワイに観光しに来ている方も、私にやさしく接して下さる方が多い印象を受けました。ある観光地で出会った観光客の方は自ら写真撮影の協力を申し出てくださいました。他にもおすすめの観光地を教えてくださいたい、観光は人の心を開かせる効果もあるのではないかと感じました。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

今回の研修を通して、観光客は観光地について自分事として学ぶ、行動することが重要なのではないかと学びました。この研修に参加するまで私は、観光の持続可能性についてあまり重要視していませんでした。というのも持続可能な観光とはその観光地やホスピタリティ産業が気を付けることで、観光客はできることが少ないと思っていたためです。しかしその考え方は間違いだったと気づきました。ビショップ博物館でハワイの歴史、文化について学んだり、見学先のホテルで話を聞いて観光地の取り組みを知り、自分から行動してこの素晴らしい観光地をこれからも守っていきたいと思いました。

では、どのようにして観光客に自ら行動させるのか、私は観光客にもっと観光地について知ってもらうことが重要だと考えます。観光客が観光地について学ぶことでその観光地に対して愛着がわいたりリスペクトを持ち、自分事と捉えて進んでプラスな行動をとりやすくなるのではないかと考えます。観光地は観光により潤い、観光客は素晴らしい体験をする。お互いにとってメリットのある状態が続くことが今後も持続可能な観光において重要だと思います。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

今後の学生生活では「自分ごととしてとらえる」という考え方を生かしていきたいと思います。前述の持続可能な観光についての考え方のように、私はあまり物事を自分事とはとらえていませんでした。しかし実際には観光客側からのアプローチも重要であると学びました。この経験から、どのようなことでも見方や考え方を変えれば自分事に変えられると思いました。例えば普段の講義を受ける際も、ただ聞き流すのではなく自分事ととらえて想像力を働かせることで身につき方も異なると考えます。

また「自分から行動する」ということも大切にしていきたいです。私は研修初日に行ったビショップ博物館でもっと学びたいと思い、自由行動の日に個人的にもう一度博物館に行きました。今まで私は自分から動いた経験が多くありませんでした。しかし、アンテナを立てて情報を取り入れる努力をしたり、自ら新しいことに挑戦することで、自分自身を大きく成長させることができると考えます。

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等： ハワイ大学マノア校（アメリカ）

研修期間： 2024年9月2日（月）～ 2024年9月9日（月）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

まず、ハワイ大学全体の様子を伺った。大学構内にジム施設、スポーツドーム、ショップ、カフェテリア、フードコートや大規模な図書館などがあった。全ての施設が大きく、カフェテリアやフードコートも複数あり、日本の大学との差が見られた。

次に、ハワイ大学内で歯科衛生士学部の学生の相互実習を見学させていただいた。実習内容は麻酔、基本検査、スケーリング・ポリッシングだった。私たちが行っている相互実習と異なり少人数でクラスが形成されており、フィードバックを受けた後、自身がまだできていないところをできるようにするために、相互実習を繰り返して自信をつけ、手技が完璧になるまで行っていた。

また、ハワイ大学内で明海大学不動産学部と合同でハワイに関する講義も受けた。講義内容は、歴史、文化、土地の仕組みや原住民の方々の思想などだった。今まで持っていたハワイの知識はごく一部に過ぎず、ハワイの歴史はとて深いもので、ハワイについてもっと知りたくなった。

さらに、加藤先生のハワイの歯科衛生士に関する講義の受講とオフィスの見学、またマキハラデンタルクリニックでの見学実習も行った。ハワイでの歯科衛生士の働き方と、日本との違いが沢山ありとても勉強になったと同時に、歯科衛生士の仕事はとても重要な役割を担っていると改めて感じた。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

ハワイの気候は平均気温が摂氏 27～28 度程度で、日差しが強かったが、日本とは異なり湿度が低いので暑苦しさは感じず、とても過ごしやすかった。建物内ではどこもエアコンが効いていた。外では日傘を使用している人が少なく、日傘をさすのは日本独自の文化のように感じた。

現地の方はとても日本語が上手く、日本語で話しかけてくれる店員さんが多かった印象を受けた。また、必ず「アロハ」の挨拶から会話が始まっており、とても気持ちよくコミュニケーションが取れた。

バス、車、自転車、バイクで移動する人が多く、信号の変わり方が日本と異なるため、慣れなかった。また、スケートボードを移動手段として使っている人もおり、スタイリッシュだった。全体的に時間に寛容な雰囲気を感じた。

ムーニーを着てみんなで外出することがあったが、すれ違うときに褒めてくれる人が多くいらしかった。すれ違う人でもいいと思ったことを褒める文化を体感し、とても感動して嬉しく思った。現地の方々の心の暖かさが非常に印象に残った。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと（400字以上）

研修を訪れるまでは、ハワイに対して「観光地、リゾート地」というイメージを持っていたが、ハワイ大学での講義を通して、これはアメリカの植民地時代に影響していたことを学んだ。ハワイの土地に誇りを持ち、今ある土地の地形を生かして産業に取り組んでいる現地の方々の姿勢に感銘を受けた。

歯科衛生士については、何をとってもアメリカ・ハワイのほうが優れていると考えていたが、加藤先生の講義を通して、高齢者歯科、訪問歯科や摂食嚥下の分野においては日本のほうが優れているように感じた。一方で、予防歯科の分野や、歯科衛生士養成機関においてはアメリカ・ハワイとの差を感じた。

歯科予防処置の分野では、日本にはない概念である「prophylaxis」について、事前学習ではプロフィー=予防ということしか分かっていなかった。しかし、加藤先生の講義を受けて、プロフィーは日本の歯科衛生士三大業務のうちの一つであると学んだ。

養成機関では、指導者からのフィードバックの仕方、相互実習への姿勢や歯科衛生士という職業・役割に対しての解像度が高く、学ぶことが多かった。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400字以上）

歯科衛生士という職業の医療界での役割や、歯科衛生業務についてより深く学んでいくことに、今回のハワイでの学び・経験を活かしたいと思った。現在日本では、歯科衛生士は歯科医師のお手伝いという認識もあるが、歯科衛生士も知識と技術を持って歯科予防処置を行うプロフェッショナルである。それを体現しているハワイの歯科衛生士を間近で拝見し、患者さんにより良い医療を提供するために常に学んでいく必要があると再認識した。

また、私は将来的に歯科衛生士養成機関で働きたいと考えているため、ハワイ大学で行っていたフィードバックの方法・頻度、指導の仕方、学生の育て方・褒め方など、参考にしたい部分が沢山あった。日本とアメリカ・ハワイでは、歯科衛生士が担う業務や歯科衛生士になるまでの過程が異なる部分もあり、全く同じように実践することはできないが、現在の日本の歯科医療が抱える問題の改善、より良い歯科医療を患者さんに提供するために、ハワイ研修で学んだことを活かしていきたい。

以上